

カツコ餌料調査

担当技手 上 堀 清 吉

(はしがき)

沖繩の漁業生産高の首位を占めるカツコ釣漁業は、年々餌料不足で充分な生産をあげられない現状にあるので、漁法、漁具の改善によりこれが不足緩和に役立つための集魚灯で集魚し、採餌法の工夫研究もなし、将来漁法指導も行うと共に餌料魚の種類、生態、時期別の産移等も調査するため実施した。その概要は次のとおりであります。

I 調査概要

1. 調査期間
 - 第一次 1965年4月12日～14日
 - 第二次 5月 3日～ 5日
2. 調査海域
 - 第一次 もと港内及本部港外
 - 第二次 豊後開島沿岸
3. 使用船舶乗組員
 - かめめえく(5.75t-14HP)比嘉船長外2人
4. 調査器具
 - 水上集魚灯1個(24V500W)
5. 調査経過

- 第一次
 - 4月12日 泊港出港。豊船村を豊真郡落港先で餌料集魚試験及び魚種調査
 - 4月13日 本部港外 南底島之東側で集魚試験及び調査
 - 4月14日 泊港帰港
- 第二次
 - 5月 3日 泊港出港。豊高敷島北方自志布島西方水深70mのところ集魚試験実施
 - 5月 4日 豊高敷島の阿波連郡落と豊開島に寄港し、カツコ業者や水産技師員からカツコ漁況及餌料状況等聴取
日没から翌日未明まで集魚試験実施
 - 5月5日 阿高島に寄港しカツコ漁船和丸の責任者からカツコ漁況と餌料状況等聴取した。
日没から翌日未明まで集魚試験実施

II 調査結果 1. 調査状況

(第一次)

月 日	調査位置	調 査 時 間			集 魚 状 況
		点灯時間	消灯時刻	所要時間	
					19時～5時迄のキャビンゴ、トウブロイワシ等次第に集ら。20時頃「ヤマトイシ」

月 日	調査位置	調 査 時 間			集 魚 状 況
		点灯時刻	消灯時刻	所要時間	
4月12日	北高真部 地先	19-10 ^m	00-50 ^m	5-20 ^m	も集り来たり、其の1尾は船内に飛び込 んで来た。22h頃にはヤビナゴ、シイ ラー、トロゴロイワシ等約100kg集 合した。(其の中に水スルも混る) 00h-30頃「ヤマトミズシ」「カ マス」「イカ」等の出現で餌魚次第に減 少。
4月13日	本 部 西 外 瀬底島北東側	19-00	23-50	4-50	点灯後間もなく「シイラー」「トロゴロイ ワシ」「アミ」等集合し、ヤビナゴ等も 次第に集合21h-30頃には約500 kg集り白色円柱状を呈した。

(第二次)

月 日	調査位置	調 査 時 間			集 魚 状 況
		点灯時刻	消灯時刻	所要時間	
5月3日	自志布島 西方	19-00	5-00	10-00	「シイラー」「トロゴロイワシ」等約 10-50kg位しか集まらなかつた。
5月4日	阿高島と安 豆島との中 間	19-00	5-00	10-00	同 上
5月5日	渡留瀬島 東島	19-15	5-00	9-45	同 上

2 採集餌魚測定表

月 日	採集地名	魚種名	体 長 体 高				備 考
			最 大	最 小	最 大	最 小	
4月12日	北高真部	水スル	5.5	2.5	0.9	0.5	
	地先	ヤビナゴ	2.7	1.7	0.5	0.55	
	本 部 西 外	トロゴロイワシ	1.6	1.8	0.4	0.4	
4月13日	外	シイラー	1.2	2.1	0.7		
		ヤマトミズシ	1.7	2.9			

「注」 第二次の時は測定せず

3. 海況、気象観測表

(第一次)

月日	観測位置	観測時刻	天候	風位	風力	気温	水温	水深
4月12日	名高真地先	18-00	C	E	3	22.4	20.7	32m
4月15日	本島港外	18.00	R	BBB	3	22.9	20.7	22m

(第二次)

月日	観測位置	観測時刻	天候	風位	風力	気温	水温	水深
5月3日	白志布島西側	18-10	B	BBW	3	22.0	22.4	70m
5月4日	阿嘉島東側	15-00	B	BBW	4	25.4	22.8	40
5月5日	同上	8-00	B	BBW	3	24.2	22.9	40
*	慶留岡島東側	16-00	B	B	3	24.2	22.9	30

4. 地元の関係者から聴取したカツオ漁況及餌料状況

慶留岡地区の可波連、南間味、阿嘉及び波名喜村の関係者の証によれば、今年のカツオ漁況は良好で、現在(5月現在)バカソマコ、テンソクダイ、シイラー等を使用しているとのことであつた。

カツオ漁船は該系数村で2隻、南間味村4隻、波名喜村5隻の計11隻いるが出漁中の漁船は3隻だけで残りは休漁中とのことであつた。

休漁中の漁船のうち5隻は一応出漁したが、魚獲量のための休漁し3隻は操業準備を完了して待機中とのことであつた。

出漁中の3隻は1,000kg~3,000kg位の魚獲高で余り振わないとのことであつた。

III 考 察

調査結果と地元業者から聴取した結果によると今年のカツオの漁況は良好のように思われる。第二次調査時に集魚量が少かつたのは其の期間が月令10日、11日、12日、に当り晴天のため月明りが強く、集魚灯の効力が充分発揮出来なかつたためだと思われる。

当所の現在までの調査結果によれば中継で従来使用されているキビナブ、バカソマコ、シイラー、ガツン、テンソクダイ、スズメダイ、等は併りによる過漁漁法と併せて集魚灯利用による採餌法(棒受網、四網張網等)も採用すれば、餌料不足緩和に役立つものと考えらる。